

合理的配慮の提供を求めるための知識・技能・考え方を育む実践研究 ～障害特性に関する説明資料とカードゲームの制作を通して～

○内野 智仁（筑波大学附属聴覚特別支援学校 教諭）

1 背景と目的

(1) 合理的配慮の提供を求めるための教育の必要性

障害者の権利に関する条約¹⁾によるインクルーシブ教育システムの理念を推進していくためには、障害の有無やその他の個々の違いを認め合いながら共に学ぶことを追及すること、誰もが生き生きと活躍できる社会を形成していくこと、障害のある者が一般的な教育制度から排除されないこと、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること、個人に必要な「合理的配慮」が提供されること等について社会全体で取り組んでいく必要がある。

合理的配慮について文部科学省²⁾は、各学校における合理的配慮の具体的内容を検討するため、特別支援教育の在り方に関する特別委員会の中にワーキンググループを設けた。その報告では、聴覚障害者である児童生徒を対象とした教育内容及び方法の配慮事項について、以下の項目を例示している。

- ・ 言語経験が少ないことによる、体験と言葉の結び付きの弱さを補うための指導をする。
- ・ 自己選択及び自己判断の機会を増やす。

また、文部科学省³⁾は、特別支援教育及び聴覚障害教育について紹介する公式ホームページにおいて、基礎学力の定着を図るとともに、書き言葉の習得や抽象的な言葉の理解に努めたり、さらに、発達段階等に応じて指文字や手話等を活用したり、自己の障害理解を促したりする等、自立活動の指導にも力を注いでいることを紹介している。更に、障害者の就労におけるコミュニケーション支援として、本人及び職場に対する障害理解の支援を目的に、作業評価を通して自己の障害理解の支援を行う研究も行われている⁴⁾。

このような背景から、周囲の人々の障害理解を促すことは勿論のこと、障害者である児童生徒自身の自立に向けた自己理解や自己表現の機会を設けることが必要であると考えられる。

しかし、聴覚障害者である生徒を対象とする障害特性の自己理解や自己表現を育む活動について、先行研究が乏しい現状があり、今後多くの実践研究が行われ、成果が蓄積されていくことが望ましいと考えられる。

(2) 研究目的

聴覚障害者が自らの特性を理解し他者に説明できること、そしてどのような支援が得られると困難さの軽減や解消につながるのか理解し、他者に説明できることは、当事者の職場定着やメンタルヘルス等において重要な役割を果たす

と考えられる。そこで本稿では、聴覚障害者である生徒を対象とした、自らの障害特性を理解し、他者に説明するための知識・技能・考え方を育む教育実践（説明資料とカードゲームの制作）について報告したい。

2 障害特性の自己理解や自己表現を育む教育実践

(1) 教育実践の概要

特別支援学校（聴覚障害）高等部専攻科の生徒が履修する科目において「職場で合理的配慮の提供を求める資料の検討と作成」「職場の理解を得るためのカードゲーム（かるた）の設計と制作」の授業を行った。

(2) 教育実践 1

科目「情報処理B」において、学習単元「職場で合理的配慮の提供を求める資料の検討と作成」の授業を実施した。

本単元では、以下の学習目標を設定した。

- ・ 将来の職場をイメージして、どのようなことで困ると思うのか資料に明示できる。
- ・ 将来の職場をイメージして、どのような支援をお願いしたいのか資料に明示できる。
- ・ 将来の職場の方々にとって見やすい、分かりやすい資料を意識して作成できる。
- ・ 発表用資料の作成が正しく行える。

本単元の授業では、以下の指示・伝達を行った。

- ・ 卒業生が上司の依頼で自ら資料を作成し、職場の方々に対して、聴覚障害に関する理解を深める取り組みを行っている事例を紹介した。
- ・ 職場の方々と同様にコミュニケーションを図るため、そして自分自身の能力を最大限発揮するためには、自らの特性（聴覚障害等）について正しく理解しておくこと、そして働く上で協力して頂きたいこと等を自ら伝えられることが大切であると説明した。
- ・ 本授業では、自らの特性を就職先で説明することを想定した配付用文書（図1）及び発表用資料（図2）を作成することを説明した。
- ・ 配付用文書は、Microsoft Word、発表用資料は、Microsoft PowerPointを使用してそれぞれ作成することを指示した。
- ・ 卒業生が作成した配付用文書を参考にしながら、配付用文書（Wordファイル）と発表用資料（PowerPointファイル）の作成を進めること、作成したファイルは授業用共有フォルダに提出することを指示した。

- 今後の予定として、本単元の成果を踏まえたカードゲームコンテンツを制作することを説明した。



図1 配付用文書（作成例）

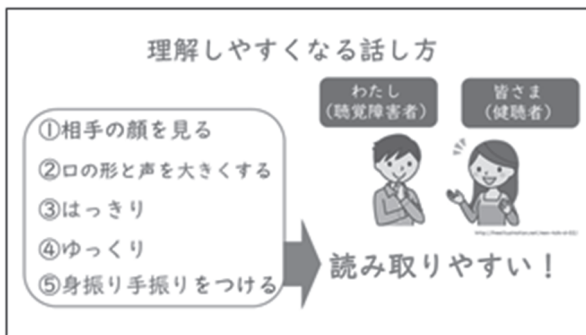


図2 発表用資料（生徒作品の一部）

(3) 教育実践2

科目「情報デザイン」において、学習単元「職場の理解を得るためのカードゲーム（かるた）の設計と制作」の授業を実施した。

本単元では、以下の学習目標を設定した。

- かるた遊びを題材として、知ってほしい情報を絵や短い文章で表現できる。
- かるた遊びを通して、職場の方々に「そうだったのか」「知らなかった」と思わせる内容を検討できる。
- かるた遊びを通して、職場の方々に「今後はこうやって支援しよう」と思ってもらえる内容を検討できる。

本単元の授業では、以下の指示・伝達を行った。

- 正しい理解を促すための情報表現の一つとして、カードゲームを用いた事例があることを紹介した。
- カードゲームの一例として「かるた」を示し、かるたの読み札と取り札の役割について確認した。
- 本授業では、自らの特性（聴覚障害等）や、職場に求めたい合理的配慮を「かるた」で表現する活動に取り組んでもらうことを伝えた。
- Microsoft Office テンプレートに公開されているPowerPointファイルを利用して、かるたの読み札（図3）

と取り札（図4）を作成するように指示した。

- 作成したファイル（PowerPointファイル）は、授業用共有フォルダに提出することを指示した。

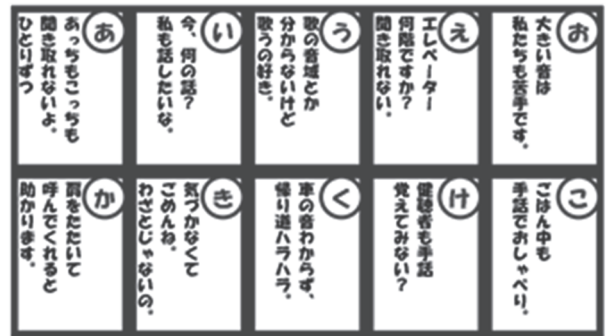


図3 かるたの読み札（生徒作品の一部）



図4 かるたの取り札（生徒作品の一部）

3 まとめと今後の課題

本稿では、特別支援学校（聴覚障害）高等部専攻科における、自らの障害特性を理解し、他者に説明するための知識・技能・考え方を育むことを目的とした説明資料とカードゲームの制作活動の報告を行った。具体的には、学習単元として「職場で合理的配慮の提供を求める資料の検討と作成」「職場の理解を得るためのカードゲーム（かるた）の設計と制作」の検討と教育実践を行った。

今後は、学習単元の教育効果を検証するために、生徒の障害特性の理解度、職場に求めたい合理的配慮の具体的な内容等の変化を学習前後に測定して評価したい。

【参考文献】

- 1) 外務省『障害者の権利に関する条約』, https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken/index_shogaisha.html (2019)
- 2) 文部科学省『合理的配慮等環境整備検討ワーキンググループ報告』, http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/046/attach/1316184.htm (2012)
- 3) 文部科学省『特別支援教育について（2）聴覚障害教育』, https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/mext_00802.html (2021)
- 4) 馬屋原邦博・筒井優『失語症者の就労におけるコミュニケーション支援』, 「第26回 日本聴能言語学会学術講演会 一般演題抄録B-2群: 社会適応への援助」, (2000), p. 185-186